第 68 回町村議会議長全国大会
伊東良孝 地方創生担当大臣祝辞

はじめに、能登半島での地震や大雨、各地で発生した災害により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、本日は、第 68 回町村議会議長全国大会が盛大に開催されますことを心からお喜びを申し上げる次第でございます。また、町村議会議長の皆様におかれましては、平素より地方創生の推進にあたりご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

政府としては、これまで地方創生の 4 つの柱であります、「地方に仕事をつくる」・「人の流れをつくる」・「結婚、出産、子育ての希望をかなえる」また、「魅力的な地域づくり」この 4 本柱に沿って施策を推進してきた結果、地方創生の好事例がたくさん出てきており、全国各地にその輪を広げていくべきと考えております。

先ほど石破総理からもお話ございましたが、ちょうど 10 年前に初代の地方創生大臣が石破総理でありました。それだけに、この 10 年間の思いというものが相当大きなものがございまして、政策の今、柱にし、日本の国を活性化させよう、創生させようということで頑張っておられるところであります。

地方の未来をつくり、地方を守る、また、これまでの取り組みの成果や課題を踏まえ、日本経済成長の起爆剤としての地方創生策を講じるとともに、人、物、カネの東京一極集中の弊害を是正していく必要があります。地方創生 2.0 を起動すべく、関係大臣と協力をしながら、内閣の取り組む重要テーマとして地方創生にしっかりと取り組んでまいります。

具体的には、先日、第 1 回目の新しい地方経済生活環境創生本部を立ち上げ、開催をいたしました。また、有識者会議であります新しい地方経済生活環境創生会議の設置を行うなど、地方創生に係る議論を開始したところであります。

新しい地方創生本部におきましては、安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生、また東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散、また付加価値創出型の新しい地方経済の創生、さらにデジタル新技術の徹底活用、また、先ほどお話

ありましたように、産学官金労言の多くのステークホルダーの連携と国民的な機運醸成といった点を柱として、基本的な考え方を年末に向けて取りまとめてまいりたいと考えております。

地方創生を実現していくためには、地方の思いを大切にし、町村議会議長会を始めとした関係者の皆様の声に耳を傾け、国・地方・国民が一緒になって取り組む必要があるのであります。

皆様におかれましても、引き続き御理解と御協力のほどをお願い申し上げます。私は、地方創生担当と同時に、大阪国際万博の担当もさせていただいております。来年の4月13日スタートでありまして、もうあと半年を切ったところであります。どうか、全国各地の皆様方の大阪万博に対しましての御支援、また御協力もよろしく願いを申し上げます。

結びに、全国町村議会議長会の益々のご発展とご参会の皆様のご健勝を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

地方創生担当大臣 伊東良孝